

宗岡中だより



12月号 令和元年11月29日(金)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「コスモスの花と風とが語り合う」

校長 佐藤哲浩

今、新河岸川の土手や学校の周りでは、7月に植えたコスモスの花が見頃を迎え、秋風に花を揺らしています。コスモスというと9月～10月の花という印象があるのですが、11月が見頃になるのも暖冬の影響で季節感が変わってきたのでしょうか？ コスモス(cosmos)とは宇宙を表す言葉ですが、この小さな花が宇宙とどんな関係があるのだろうか？と疑問に思い、コスモスの名前の由来を調べてみました。するとコスモスの花の成長過程が由来であることが分かったのです。花が咲き始めると、おしべが成長し極初期を迎えます。この花を命名したマドリード植物園のカバニレス神父は、ビッグバンのごとく星が飛び交っていく様子をイメージしてコスモス(cosmos)と名付けたのです。またコスモスには秩序や調和という意味もあり、満天の星のように輝いて咲くので、そのように名付けられたのではないかとされています。



話は変わって、過日朝日新聞を読んでいるとある記事に目が留まりました。23日からのローマ教皇(法王)フランシスコの来日を前に、改めて脚光を浴びている1枚の写真があるのをご存知でしょうか。幼子を背負い真っすぐ前を見つめる「焼き場に立つ少年」。写真を撮影したのは、故ジョー・オダネル氏。同氏の写真集には「焼き場に10歳くらいの少年がやってきた、少年の背中には2歳にもならない幼い男の子が括り付けられていた」と記され、詳しい撮影場所などは書かれていない。

原爆投下後に出会った男の子が少年では？ 長崎市の村岡正則(85)さんは、そう信じ捜している。爆心地から約1.6kmで被爆し、学校の裏山に逃げ込んだ。「そこであの写真と同じように、幼子を背負った男の子を見かけた。目が合うと向こうから近づいてきました」声をかけると、男の子は「お母さんを探しよる」と答えて立ち去ったという。当時通っていた学校の校庭で何度か遊んだことがあった。同じ10歳前後で転校生だったようで名前までは覚えていない。



フランシスコ教皇は、17年の年末、写真に「戦争がもたらすもの」とメッセージを添えたカードを関係者に配布。「このような写真が千の言葉よりも多く語る」と語った。翌年8月には日本のカトリック教会でも配られた。教皇は長崎市で「核兵器に関するメッセージ」を出すときに掲示する予定らしい。カトリック信徒である村岡さんは、「少年を知っている」と昨年名乗りを上げ、探し始めた。市外まで範囲を広げたが、特定する情報には巡り合っていない。

ローマ教皇の広島・長崎でのメッセージが、日本の近隣国・世界の核廃絶の一助となることを願っています。